早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
3361-2

W
学位論文
3361
2

博士（人間科学）学位論文　概要書

混みあいに関する環境心理学的考察

―公共的な空間を対象とした検討―

Environmental Psychological Analysis of "Komiai"

―Study of Public Spaces―

２００３年１月

早稲田大学大学院　人間科学研究科

伊藤　教子

Itoh, Kyoko

研究指導教員：　野嶋　栄一郎　教授

本研究は，公共的な空間を対象とした実験及び調査を通し，私達がどのように混みあいに対しているかを環境心理学的な視点に基づき検討したものである。

第１章では，環境と人間の関係について既往モデルを概観し，環境心理学では，物理的環境を人間がどのように捉えているかを重視している点について述べた。

第２章では本論文の主題である混みあいの前提となる過密が人間に及ぼす影響のポシティブな側面と，クラウディングを含むネガティブな側面について議論した。そこから研究の重要性と解明の困難さについて述べ，部分的現象についてモデルを積み，包括的なモデルの構築に向かうことが有効であることを示した。

以上を踏まえ，第３章では，私達が空間をどのように捉えているかがその空間の評価及び行動にどのような影響を及ぼすのか，混みあいの側面から検討することを本研究の目的とすることを述べた。環境をどう捉えているか，つまり環境へのイメージは，その環境を経験することにより個人の中に蓄積され，再度その環境を経験する際の評価や行動に影響を及ぼすと考えられることから，この点を検討することは，非常に意義のあることと考えられる。よって，様々な空間の比較が必要となることから，本研究では，不特定多数の人間の利用する公共的な空間について検討することとした。なお，混みあいに関する評価の指標として，物理的密度を知覚した段階として混みあい感，混みあい感に基く空間評価としてその空間への参加意向が採用された。また，今回検討はいずれも大学生，大学院生を対象に行われた。

第４章では，密度の上昇に伴う混みあい感と参加意向の両評価の変化について刺激写真を用いた評価実験により検討を行い，続く第５章では公共的な空間についてイメージ調査を行い，更にこのイメージが空間の混みあい及び参加意向の評価に及ぼす影響について画像評価実験により検討した。

第６章では，検討の対象を行動に移し，実際の生活で空間へのイメージが行動にどのような影響を及ぼしているかについて，調査により混みあいとの関係から検証した。

第７章では，第４章から第６章で得られた知見について以下のようにまとめた。

（１）混みあい感と参加意向について，混みあい感は，密度の上昇に伴い高くなっていくが，参加意向は，空間により異なる変化を見せた。また，全体の傾向として評価空間内の人数が増加する程，密度が高くなる程混みあいの評価が高くなることが示された。更に，この混みあい感は，参加意向に影響を及ぼしており，混みあい感の評価が増す程参加意向は低下する傾向が認められた。また，男性の場合は空間の人口密度が高い際に，

女性の場合は空間の床面積が広くない場合に混みあい感の参加意向への影響が強まる傾向にあることが示された。

（２）公共的な空間のイメージの構造として，「誘引性」，「喧噪性」，「非日常性」の３つの因子が抽出され，因子間の関係は空間により特徴が見られた。この結果に基づき，分類された空間について，目的遂行に重きを置く目的志向型，娯楽的な要素の強い娯楽志向型という空間の志向の観点から説明可能であることを示した。

（３）全体の傾向として，空間のイメージは混みあいの評価に影響を及ぼし，更に空間の参加意向の評価に対しても，混みあい感と共に影響を及ぼすことが示された。個々の空間で検討した場合，イメージの混みあい感への影響は，極小さいものであった。混みあい感が参加意向に及ぼす影響は，空間により異なる傾向が見られ，娯楽志向型の空間よりも目的志向型の空間は，混みあい感が参加意向に及ぼす影響が強いと考えられた。

（４）実際の混みあい回避の為の行動を決定するのは，空間に対するイメージではなく，空間が混みあうことへの許容度，行動により混みあい軽減に効果があったか，滞在時間といった直接混みあいの経験に関わるものであった。しかし，こうした変数がどのように行動に影響及ぼすかは，空間により異なる可能性が示された。

（５）公共の空間そのものへの評価が，男性は女性より低い傾向にあった。また，男性は混みあう空間に対して女性よりも否定的であるが，混みあい感の評価，参加意向について明らかな性差は認められなかった。ただし，前述のように，混みあい感が参加意向に及ぼす影響は，男女で物理的要因の影響が若干異なる可能性が示唆された。

以上から，イメージや物理的要因は混みあい感，参加意向に影響を及ぼしており，混みあいに関わる手掛かりは行動に影響を与えていること，更にこれらの変数間の関係の強さや傾向に空間のイメージと物理的条件が影響を及ぼすという空間評価の二重構造の可能性を述べた。

そして，公共的な空間の混みあいを考える上で，空間のイメージ，或いは空間の持つ心理的特性は，物理的要因同様にその空間の経験において非常に重要であると結論づけた。